

## 審議会等の会議結果報告

1. 会議名	第29回 松阪市政推進会議
2. 開催日時	令和5年5月12日(金) 午後3時00分～午後5時00分
3. 開催場所	松阪市役所 議会棟 第3・4委員会室
4. 出席者氏名	出席委員：岡山慶子委員、小野崎耕平委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、三井高輝委員、山端裕子委員 事務局：竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部長、川上企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営企画課政策経営担当主幹
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍聴者数	0人(内、報道関係0社)
7. 担当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・議事録は別紙のとおり

## 第 29 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和 5 年 5 月 12 日 (金) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
  2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
  3. 出席者 岡山慶子委員、小野崎耕平委員、門暉代司委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員、三井高輝委員、山端裕子委員

〔事務局〕竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤本企画振興部長、川上企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営企画課政策経営担当主幹

### 資料

- ・資料 1 松阪市の観光マップ
- ・資料 2 これまでの市政課題に関する調査結果

### 1 市長あいさつ

改めましてこんにちは。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今年の 1 月ぐらいから生体 AI、チャット GPT が出てきており、早いところでは既に実証実験が行われています。国も積極的で、これから世の中の動きも早くなっていくのではないかと思います。社会が変わると行政も変わってきます。現在、松阪市の正規職員は 1,300 人、非正規職員が 1,000 人、その他職員が 600 人、併せて約 3,000 人くらいの方々市役所で働いています。

今度、国から非課税世帯に 30,000 円、ひとり親家庭に子ども 1 人につき 50,000 円を給付しますが、これはシステムを組んでいる訳ではなく、それもやりながら、封入や支払いの作業を行っています。AI は封入や発送作業はやっていませんが、一定条件で指示をすれば、すぐにリストを作ることが出来ます。これから市役所の仕事はリアルタイムで大きく変わっていきます。それにより福祉やまちづくりにもっと人を割くことが可能になり、いろんな人に寄り添うことが出来るのではないかと捉えています。コロナが 5 類になり、いよいよ世の中の空気が変わってきました。これからの市政、松阪市の長をどう生かしていったらよいかというのが今日のテーマになります。コロナが終わって日本国中が観光誘客や地域の活性に進んでいきます。松阪市独自の魅力を出さないと、人は来てくれないといった状況です。そこで松阪市の長とは一体何かをまずはお聞きしたいのです。資料 1 で松阪市の観光パンフレットを添付させてもらっております。こちらを見ていただいて松阪の良いところはどこなのかを一度皆様でお話しいただきたいと思います。また資料 2 は、これまで市政の課題として調査をいろいろやってきた結果になります。今年も 3,000 人アンケートをする予定なので、市民にこんなアンケートをすれば面白いのではないかとというアイデアがあれば一緒にお聞きしたいと思います。例えば資料 2 の 5 ページの、6) パートナーシップ宣言制度で、松阪市でもパートナーシップ宣言のような独自の施策を導入する必要があるかという問いに、「必要がある」が 34.9%、「わからない」が 34.9%、「特に必要があるとは思わない」「もう少し待つ方がよいと思う」といった衝撃的な意見もあり、もう少し人権関係の話を詰めていく必要があると感じました。パートナーシップ宣言も簡単にすることは出来ませんが、市民にとって、ここは関心がないというアンケート結果だったように思います。調査によって市政の方向を決めたものもありますので、市民的にはどう感じているか示唆をいただきたいと思います。何卒よろしく願いいたします。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

### ○ 会議の公開・非公開の決定 会長)

皆様、こんにちは。本日は令和 5 年最初の会議で、通算 29 回目です。活発なご議論をよろしくお祈りします。

それでは今回の会議も公開で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

会長)

ありがとうございます。では本日も公開で開催したいと思います。

## 2 協議事項

- 1) 松阪市の特長とは何だろう
- 2) まちづくりについてアンケートで市民に聞きたいこと

市長)

松阪市の市長としてあいさつする時にいつも言っている話ですが、松阪市と聞いてまずイメージするのは牛肉であり、松阪は食の町と言うのが一番わかりやすいのではないかと思います。この間、北勢のとある市の方とお話をしている時に気づいたのは「松阪は飲食店が多い」「昔からの老舗が残っている」ということです。またその市には昔からの店はほとんどなく、あまり市民は外食をしない。といった話も聞きました。市民性なのか松阪市は外食が多いように思います。

松阪は製造業のまちでもあり、林材業が多いです。昔から松阪市は基幹産業と言われていました。GDPの円グラフで、ほとんどの町はそこに%として現れてきませんが、松阪市は林材関係が1%現れます。皆さんにとって何が一番魅力的なのかということ突き詰めたいと考えています。

また、徳和地区コミュニティセンターがスタートしました。元々は徳和地区市民センターと徳和公民館が同居しており、これまでは市職員がセンター長としておりましたが徳和住民自治協議会が指定管理者となり運営管理をする公設民営に転換しました。これからの行政は市役所の力だけでは到底成り立ちませんので、地域と一緒にやっていきたいと考えています。しかし、それを地域の誰がやるのかとなった時に、中心となる人達の高齢化や役員のなり手も減っているという状況でしたので、有償ボランティアにしようということで、指定管理制度となりました。指定管理になると土日に関けるなど、これまで市役所ではやれなかったことが出来るようになります。社会教育法の枠組みが外れ、物販なども出来るので地域の野菜を売るといったことも出来ます。街づくりの拠点施設として地域の皆さんがより使いやすいように変えていきたいと考えています。これから課題も出てくると思いますが市役所も一緒に地域課題解決に向けて共にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

会長)

AIが進むと職員が行政本来の仕事ができるということは非常に重要なところだと思います。

委員)

松阪市の特長をどう生かしていけばよいかとのことですが、市長はどのようにお考えですか。

市長)

これからのまちづくりは福祉に一步踏み込んでいくようなイメージで考えています。例えば、高齢社会で、高齢者の免許証返納後の移動手段など、交通網をどうするかなどの課題は福祉的な視点でないと解決出来ません。これからは様々な分野で福祉的な視点が必要となってくると思います。もう一つ、まちが元気になる要素はいろいろありますが、一つの方向として、今年度土性さんというオリンピックの金メダリストが職員として入って来ました。彼女が1人入ってくるだけで皆さんが注目している、スポーツの持つ力がとても大きいと感じました。スポーツには見る人、支える人、プレーヤーが必要であり、たくさんの人を巻き込む大きな要素となっており、まちづくりの原点にしたいとも感じました。健康志向に持っていく一番の近道はスポーツであり、若者にも入りやすいテーマではないかと思います。まちづくりの方向としてスポーツの力を利用するというのはどうかと考えます。

委員)

松阪市のHPを見ると「お肉のまち」になっていました。「松阪市は何のまちだろう」と言った時に、「製造のまち」「食のまち」、ここから「スポーツのまち」が出てきたとなると、どのようなテーマで考えたら良いか悩んでしまいます。「松阪市=何々」と決めてしまっても良いのかとの思いもありますが、そのテーマをしっかりとさせてから、それに向かって内容を具体的に考えるとした方が良いかなと思いますが、いかがですか。

市長)

松阪のイメージを市民に何回か聞いていますが、「自然が豊か」「食のまち」などすべてが興味あ

ることで、本当は1つに絞り込んだ方が良いのかもしれませんが、絞り込むという作業は本当に難しいと感じています。

委員)

物売る時にペルソナというターゲットを決めるという手法があります。松阪は魅力が多いまちなので柱やテーマを決めることは、とても難しいですが、テーマを決めることは非常に大切なことであり、何か主要になる大きなテーマがあれば、定期的に変わっても良いのではないかと考えています。

委員)

先程、市長からコミュニティセンターの話がありました。資料の10ページに「コミュニティセンターが地域に必要なと思うか」とありますが、4月から徳和地区コミュニティセンターとしてスタートして、交流施設があると発信したところ、今では貸館が6倍、5月・6月・7月は土日が全部埋まっております。展示やグループでの利用など、使いやすいコミュニティセンターになったということで、たくさんの方が活発に活動されています。その中で困りごともいくつか聞いております。就労支援もそうで、1つ1つ報告もしていますが、4月は57件、5月は現時点で14件の相談を受けており、一番歳上の方で97歳の方が来ていただいています。問い合わせもあり、貸館の増加には驚いています。そういう場がもっと広がってほしいと思います。

委員)

チャットGPTと今の話と関連しているのですが、先日ある会で「この国の人は困ってない」というお話がありました。当たり前にあるものが多く、行政や政治が価値を生むのがものすごく難しくなっています。その中で市民のニーズは大変きめ細かくなっている状況です。また市の特長については、お肉だけではもったいないとも思います。歴史があって、歩くだけでも価値があるというまちは、中々ありません。ただ、どれを打ち出していくかということは1つに絞るのは非常に難しいことだと思います。

委員)

松阪らしさの中に、ここ数年「豪商」が増えており、とても嬉しく思っています。伊勢市のまちづくり仲間に松阪市のことを聞いたところ「文化をビジネスにできる」という答えが返ってきました。まさしく豪商のまちの知恵だと思っています。商工会議所を中心にやっていた「豪商スピリット宣言」は学びの多い内容を皆さんに伝えられたと思っています。「松阪で商いを成功させたら本物」、といった話も聞きますので、商いの修行の場のような、他のまちにない見せ方など、もっと可能性があるのではないかと思いました。そこからストーリーという意味でも、さまざまあると思うので、その辺りもとても魅力に感じています。

会長)

私もそれに関わっていました。当時の私の想いとしては、物語のような工夫が出来ると思い、豪商のまちとしました。いろんな要素の松阪をアピールする、それを一言で束ねられるもの、豪商のまち、豪商スピリットと表現しました。昔、蒲生氏郷のお城のある町というのも良いのではないかとということで、名前をつけて、そこからいろいろと派生している形になります。そこから相補性ができ、宣長も豪商スピリットから出てきております。そうした1つのストーリーにまとめるのも非常に良いことだと思います。

委員)

資料を見させていただきました。食文化・歴史・すべてにおいて平均点以上なのが松阪市ではないかと思っています。先月、歴史学者の茂木誠さんとYouTubeの番組（もぎせかチャンネル）を作りました。3週間で30万人の方が見ている番組で、そこで先生といろいろとお話をさせていただいたのですが、本居宣長をととても高く評価されていました。彼がいなければ今の日本はない、江戸から明治をつなげた素晴らしい偉人とおっしゃっていました。大事なのは発信だと思います。歴史文化を上手く発信するような仕組みを作ると、より効果的ではないかと思っています。

委員)

自分の中で混乱している部分があります。今、皆さんのご意見を聞いていますと、どちらかとい

うと外から見た松阪をどうするかというお話だと感じました。アンケートを見ると、企業誘致はコロナ渦の中で「慎重にするべき」が1番多く、消極的な人が増えている一方で、観光は「観光地ではない」というネガティブな意見が多い結果となっています。この結果を見る限りでは、松阪の人は豪商スピリットを持ちながらも閉鎖的な人が多い、そのアンバランスさに違和感があり、また企業誘致に対して慎重な意見が多いことにも意外性を感じました。観光地も、客観的な判断ですが「観光地化すべきである」という質問がないので、このアンケートからは方向性が見えません。そう考えると松阪市の政策を内と外で分けるべきではないかと思います。コロナ渦でも老舗が潰れずに残っているのは、松阪市民が松阪市の中で採算を合わせているからだだと思います。「外に倣わなくても生きていける」という感じなのかなと思います。動きも目も外へ外へとなりますが、松阪市民はこのアンケート結果を見る限り、豪商スピリットとは異なる動きの結果が出ているように思います。

委員)

豪商のまちということですが、歴史と文化は全国どこにでもあります。では松阪の特長と言えばというと、豪商のまちとして最近、周知されてきましたが、どうしても中心市街地になります。観光地と思っている人は合わせても40%くらいで、中々、旧4町までは広まっていないように思います。そこで物語性ということ、江戸などから文人たちを連れてくる、それが松阪特有の文化であり、その発信の工夫がいまひとつ足りないように思います。文化は周辺でも、射和の竹川竹斎や、大谷嘉兵衛など、そういった人達をもっと幅広くアピールしていけばと思います。

委員)

中々、答えが出せません。委員の意見は真髓をついていて、何に対して、誰に対しての特長かがはっきりしていないように思います。「誰に対して」というのを考えていくと、「市民に対して」だと言えます。市民に対して、松阪が行政としてやっていくと解釈した時に、松阪市の特長は何かを考えると、市民に対して聞くことは、「市民が何を望んでいるか」ということになります。市民は引越さないかぎり町を選べません。つまり行政にはライバルがないということです。市民が住みたいということに対して、サービスを提供するのが行政です。生活面や働く場、新しい事業をする場としても、行政がきちんとした特長を出してくれないから。まずどこを向いて行政が動いているのかを市民が分からないと、市民の生活に対して行政もわかりません。そこから考えた特長は、何かに繋がっていないといけないうし、それが原点ではないかとも思います。材料はたくさんあるので、あとは見せ方、アンケートと市民の意見が離れていないかを接点を考えながら特長を見ていく必要があると思います。

委員)

委員が言われたように、何を目的としてこれを聞かれたのかが捉えどころがありませんでした。少子高齢化や人口減少の社会で松阪がどのように生き抜くか、発展していくかをみんなで考えたいのかなと思っています。どのように若い人が松阪に住みたくしてくれるのか、医療、介護、福祉でどのような仕組みを作っていくか。AIを活用して、本当に人ではないと出来ないようなところに人を割くというやり方は、非常に理にかなっていると思います。特長として発信するのは、松阪市に住みたい・住み続けたい、その為にどのように維持するかということです。

医療分野でも協力できる部分はいくつかあると思います。特に介護では、お年寄りを地域でどのように支えるかということです。住民を大切にするような気持ちを育てることが大事なのかなと思います。松阪市の医療は、ある意味恵まれていて、中規模の病院が3つもあり、365日救急車も走っていますし、応急診療所もあります。ただ恵まれすぎていると感じることもあり、例えば、コロナで発熱があると、すぐに救急車を呼んで判断をする方が多いのが現状です。平成17年ぐらいから、3大病院が1次救急として、365日・24時間体制でやっておりますが、夜間診療を求めて、市民の方が総合病院にやってきては「昼間は忙しくて、いろんな検査をして欲しいから来た」といった方が多く、それが松阪市の恵まれすぎている部分だと思います。松阪市を愛するようなプライドを作ることも必要なのではないかと思います。

委員)

今日の議案は難しすぎます。松阪の特長は自分ではわかりません。これは自分の中でずっと課題となっている部分です。調査の数字ですが、10年くらい前から松阪市は観光に力を入れているが数字的には残っていないように感じます。中心市街地を中心に意見を言っていますが、飯高・飯南地域にマッチするかというところではないように思います。市民に寄り添う市政、具体的に言います

と、マラソンの第1回開催時に、意見や要望がありました。それはとても良い事であり、寄り添うということは市民の意見を取り入れ、対話しながら市政を動かしていくことではないかと思えます。また動かした市政の方向性を市民に知らせる、つまり情報発信も必要だと思います。それにはアンケートも客観的な意見や答えやすい意見になるような設問を考えていくべきだと思います。市政がやろうとしていることを市民に伝えながら意見も聞く、そこにコミュニティが生まれる、その結果、市政から情報発信をすれば密にはなりますが、中々、結論の出ないテーマだと思います。

松阪市は特に地域性があるので、他と一緒にではなく、それぞれの地域に合った市政をしていくべきだと思います。また、今、世間が何を求めているのかを把握することも重要です。昔は豪商スピリッツとは何か、と言われたが浸透してきています。時代が何を求めているか、それに対応する施策をしていくには、情報収集が必要であり、市民1人1人に寄り添う市政をして欲しいと思います。

委員)

社会的課題とは何かということを考えてみたいとは思いますが、それを1つ1つ上げていくのはキリがないことだと思います。村上春樹が本の中でラオスの魅力を「何かがあることではない」と言っていますが、「何もないことが良いことではない」とは思っています。社会課題を市民に1つ1つ聞くことも大切ですが、課題がそれほど多くないのも松阪の魅力であると思います。

また松阪市は地域内の資源が豊富だと思います。人的なことも含めて、そういう資源がたくさんあり、サポートする文化が出来上がっていると思っています。松阪市の人や松阪出身の人に会うと、羨ましいと皆さんから言われますが、それは松阪市の人達が歴史的に育ててきたものは、今の時代にとって大切なものを持っており、それは松阪市の市政が影響しているのだと感じます。それらを市の内外にもPRしたら良いのではないかと思います。

市長)

松阪市民は閉鎖的ではないかということですが、なぜ「松阪市は観光地だと思うか」についてアンケートを取り続けているかということ、市民が観光地だと思わないと観光は成り立たないのではないかと考えているからです。市民ニーズにこたえていくだけでは町は発展していきません。委員が言われた商人文化でこの町にパトロンを呼んでくるなどということもありますが、それなりにこの町を設え、長谷川治郎兵衛家や三井発祥の地の一般公開をしていくなど、皆さんに寄っていただく町をつくり、市民がシビックプライドを持って欲しいと思っています。

松阪市で一番自慢できるのは医療であり、人口が16万人くらいのまちで総合病院が3つもあり、全国と比較しても高い医療体制ですが、そのことは市民の誰も知らないのではないかと思います。そのことを周知しても、既に自分たちが享受しているものについて市民は関心がないように思えます。それを維持していくには、ある程度の人が集まって、次の一手をどうするかを考えていかなければならないと思います。

委員)

自分のことは、自分が外に出るか。外の人に教えてもらうかどちらかでしか分からないことと思えます。松阪市は観光に舵を切るということ、ぼんやりとでも発信(意識)していかないと市民には伝わらないのではないのでしょうか。

委員)

「観光地」という言葉も誤解を招くように思えます。ヨーロッパのまちにおいては、自分たちの住んでいるところが「1番だ」という気持ちが観光地を育てています。とってつけたものではなく、染み出てくるものが良い、それが市民から湧き上がれば良いのではないかと思います。

会長)

松阪市はいわゆる”観光地”というイメージではないのではないかと思います。

委員)

このまちに住んで良かったなというだけで、人は自然と寄ってきますが、生活できることが前提となってきます。ただし、それは連綿と続くものではありません。犬山市やおはらい町などは作られた町で、古い町並みに新しい町並みをマッチさせたものであり、残っているものを生かしながら、新しいものも取り入れる、仕掛け、が必要ではないかと思えます。外の人からは「殿町」は評価されています。角館や金沢、足助などの例のように、八千代の前の通りに生垣があり、武家屋敷にな

っておりますが、全国的にとっても珍しいです。最近、原田次郎旧宅の入館者も増えており、あの佇まいを全国発信出来ないかと考えています。町並み保存連盟の中でも評価は高いです。

委員)

二次救急や医療体制については、しっかりコミュニケーションを取っていかなければならないと思います。また、うちはここが強いというのを何らかの指標を使って発信したら良いのではないかと思います。例えば、良くあるアワードの計算式を分析して、上位にランキングされることで、それを売り込むなど。松阪市の長所について「わからない」と言うのはみんな同じだと思います。市民が必要なものは市民に聞いてもわかりません。これからはアイデアを出すということに徹底的に頭を使っていかなければならないと思います。

アイデアとして、これだけの人物を輩出しているまちは中々ないので、「人材育成とリーダーの町」というのはどうでしょうか。ダボス会議のように飯南や飯高で経営者が集まってリーダーがビジネスについて学ぶ、といったことや、企業の経営合宿というものを松阪で開いてもらうなど、こっちから仕掛けていくというのはどうでしょうか。

委員)

転入してきた立場から言いますと、タイムスリップしたような面白さがあると思います。教育については、飯高などは自然が多く、ドラム缶でお風呂に入ったり、非認知能力を育てるには最高の環境だと思っています。またこれからの人材育成にマッチするのではないかと思います。グローバルとローカルが合わさったグローバルとして、松阪は人材育成に最高の場所と思っています。内側は松阪家、外側は株式会社松阪としてビジネスとして考えていかなければと反省しました。

委員)

松阪市は低層住宅が多く、それが何で良いかということと食べ歩けるところです。宇都宮では毎日食べ歩いています。多少、金銭的な余裕のある人が移り住むようになっていくと思います。

委員)

今日、松阪でタクシードライバーの方に歩けば良かったのと言われました。文化は高尚な分野なので、一般の人より経営者に刺さるのではないかと思います。影響力のある人にアピールしてはどうかと思います。

会長)

市民向けの寄り添う市政の方向について、アンケートではザクッと聞いているので、困った人のニーズなどをつかむ良い方法はないですかね。

委員)

良いところを収集した方が良いと思います。文句を聞き始めると悪いまちに見えてくるので「良いとこ自慢」を集めていくのはどうでしょう。市民が持っている松阪に対するプライドなどを聞いてみるのも良いと思います。

委員)

アンケートで「誰に」対してかを聞きたいです。また市政を預かる市職員にも同じ質問をしたらどうでしょう。市民と接触率の高い職員など、もしかするとダイヤモンドが出るかもしれません。市政を運営する時に、「私の意見を取り入れてもらっている」という自慢もあればやる気が出るのではないかと思います。

市長)

このアンケートは3,000人を無作為抽出している。そのうちだいたい10問前後その時々の方針を決める時に聞いております。例えば幼少中のエアコンなどはそうです。反対派の声は大きく聞こえ、1割反対がいると市民全員が反対しているように見えます。大多数はサイレントマジョリティで、市民集会などでは特に反対している人が多くなってしまいます。今は、エアコンがある生活が普通で、それは災害に近い酷暑があったからであり、昔の人はエアコンなしというのが普通でした。今回、アンケートを取ってみると賛成が多かったので特定課題に関してはこういう取り方をしました。フルマラソンの話でもありましたが、それもアンケートで決めました。あと職員についてです

が、松阪市には職員提案制度というのがあり、昨年は 18 件の応募がありました。その内の 4 件が採用され、予算付けもされております。始めた頃はほとんど上がってこなかったもので、市役所の職員はクリエイティブな仕事をしていないように思いました。そこは県と大きく異なりますが、国から見ると県も同じように見えます。国の官僚はクリエイティブが当たり前であり、市はほぼ決められたことをやればやっていけるので自分たちで予算を獲得するような雰囲気ではありませんでした。それが徐々に変わってきております。

委員)

自分の中では、このアンケートは信憑性がないように思います。市民の意見をどうやってくみ取るかよく手法を考えるべきだと思います。

委員)

内閣府の会議で、最近の政権は世論調査を気にしすぎと言っていました。あくまで参考であり、十分情報がないのに答えている部分もあると思います。

委員)

職員提案制度、市民に公開で見せてもらおうと思います。また、市職員に期待しているのは繋ぐ力であり活躍する魅力的な市職員もいらっしゃるのそういう方が活躍するような雰囲気が作れると良いのではないかと思います。

委員)

文句を言うというのは、市庁舎の雰囲気も関係しているように思います。市役所の職員も楽しく働いているというのが良いと思います。

委員)

市庁舎の話で言うとネットを張って日よけしてあるが、どうも暗く感じます。

委員)

庁舎内のレイアウトが悪いのではないのでしょうか。番号で呼ばれるのもイメージが悪いのでは。

委員)

印鑑証明取りに行ったら、両替機がなく困りました。

会長)

他になにかありますか。ないようでしたら、これで終わります。

《午後 5 時 00 分終了》